三条小

主体的に学ぶ子供の育成

～問いをもたせる授業づくりを通して～

（１年計画１年次）

校長　　在家　正行

１　研究主題について

本校では、教育目標「自分をのばす」の達成に向け、教育活動全体を通して、自ら進んで自分の資質や能力を伸ばす児童の育成を目指している。

昨年度の教育課程編成会議において「指示されたことや与えられた課題に対しては、素直に、真面目に取り組むことができるよさをもっているが、自ら課題に気付き、解決に向けて、挑戦したり、粘り強く取り組んだりすることに課題がある」という児童の実態が確認された。換言すれば、「主体的に学ぶこと」に課題があるということである。

昨年度は、同様の児童の実態に対し、「聴き合い高め合う」という観点で学級活動を中心に課題解決に臨み、学級活動においては一定の成果を上げることができた。しかし、他の教科等の場面において先のような実態にあり、改善の必要がある。

そこで、今年度は、「主体的に学ぶ」ということを課題にして、頭・心・体つくりの側面から児童の資質や能力を伸ばし、全人的な発達・成長を実現したいと考え、学校目標を「主体的に学ぶ子供の育成」と設定し、頭つくりの重点施策「自分の『問い』をもたせる学びの推進」とした。

本研究を頭つくりの重点施策を具現するための取組と位置付け、研究主題を設定した。

２　研究のねらい

子供が自分の問いをもって学ぶことができるように授業をデザインすることにより、主体的に学ぶ力が育つことを、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

自分の問いをもって取り組めるように課題設定を工夫したり、自己の変容を捉える視点を明確にして振り返りをさせたりすれば、主体的に学ぶ子供を育てることができる。

４　研究内容

(1) 問いをもたせる授業過程

ア 身に付けさせたいことの明確化

その単元で、その時間で何を身に付けさせたいのかを明確にする。

イ 問いを共有できるような教師のはたらきかけ

問題解決の必要感・切実感を伴った問いとして共有させる。

ウ 問題解決の必要感をもった学習課題の設定

解決すべきことを明確化・焦点化する。

(2) 自分の学びの振り返り

ア 振り返りの視点

自己の変容を捉える視点を明確にし、学びの成果を実感させ、よさや自分の成長を自覚させる。

イ 振り返りの活用

自己の変容から次の意欲につなげたり、振り返りから生まれた新しい問いを次時に活用したりする。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者　等
６	２９	第１回授業研究【社会】　授業者　４年２組　教諭　大西潤子 題材名「ごみのしょりと利用」
９	２８	第２回授業研究【理科】　授業者　理科専科　教諭　古川博規 題材名「水溶液の性質とはたらき」
１０	２４	第３回授業研究【算数】（要請訪問） 授業者　２年２組　教諭　當麻玖実 助言者　八戸市総合教育センター　副所長　松橋祐哉 題材名「かけ算（１）いくつ分とかけ算」

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要　等
５	２５	アセス検査に関する研修　講師　三条小学校　教諭　相馬昌文
８	１９	生徒指導　問題行動等への対応について（要請訪問） 講師　教育指導課　青少年グループ　石田純也　主任指導主事
１１	１８	１人１台端末活用・情報モラルに関する研修（要請訪問） 講師　八戸市総合教育センター　石井一二三　主任指導主事

６　研究の成果

(1)　「資料提示のタイミングの工夫」「対比する２つの問題提示」「予想を立てさせてからめあてをもたせる発問」等、教材提示や発問の工夫をすることによって、必要感のある問いが生まれ、その時間内で学習を明確にすることができた。また、実験や動画等の教材提示の工夫によって、児童が課題を自分のこととして捉え、知りたい・学びたいという意欲をもたせることにつながった。

(2)　学びの振り返りの視点を各学年や教科等で焦点化したことによって、児童が学習の成果や自己の成長を実感するとともに、次時への意欲や新たな学習課題をもつことに有効であった。また、友達のよさに目を向けた振り返りは、児童同士の交流を深め、みんなで学習する楽しさや学習意欲の向上につながった。

７　研究の課題

(1) 児童が必要感や切実感をもって問題解決に向かい、共有した学習課題を主体的に解決させるために、一人一人が自分の立場を表明する等、自分の考えをしっかりともてるような手立てを講じる必要がある。

(2)　意欲的に伝え合ったり、発達段階に応じて適切に表現したりすることができるようになるために、発問や言語活動を中心に据えた学習過程を工夫する必要がある。

(3)　振り返りが次の学習に生かされるように、「前時の振り返りを次時のめあてにつなげること」「前時の学習で分からなかったことが本時を通して分かったのかを確認すること」を大事にしたい。また、今後は、系統性をもたせるために全校で共通した振り返りの視点についても考えていきたい。

（記入者　西村　悦子）